

## 増林の御茶屋御殿

加藤 幸一

越谷市御殿町には、徳川家康が鷹狩りのために立ち寄って休息するための、幕府の御殿があった所である。

越ヶ谷の御殿町に御殿ができる以前は、徳川家康は鷹狩りで増林の茶屋御殿に立ち寄っていた。増林にあった茶屋御殿が、現在の御殿町に移されたのは、「徳川実紀」によると、江戸時代初めの慶長九年（一六〇四）のことである。移転先のそばには、元荒川が流れ、当時の奥州街道（吉川橋下流の中川から元荒川の右岸に沿った自然堤防上の道）が通っていた。

移される前の増林の茶屋御殿はどこにあったのか。越谷市教育委員会発行の「越谷市の文化財」では、「この林泉寺周辺は、徳川家康が設営した御茶屋御殿が建てられていた所であった」との説を紹介している。増林の茶屋御殿に関しては、その他に「城之上にお狩場茶屋があった」との『城之上』説が昔から地元で言い伝えられている。これも含めて紹介をしたい。

### 1 林泉寺の茶屋御殿説と『御殿』石塔及び「旧記巻」

林泉寺に「御殿境内」と刻まれた標識石塔がある。「御殿」とは、慶長九年まで増林にあった茶屋御殿を指すのであろうか。すぐそばには古利根川が流れ、水上交通の便利な所である。この石塔には造立年代が刻まれていないのが残念である。「御殿」の文字がいつ刻まれたのか、その年代がわかればこの石塔の信憑性が高まるのである。その石塔に刻まれている内容を次に紹介する。

#### ◎『御殿』文字付き巡礼標識石塔

所在地 増林・林泉寺境内の観音堂前

以前は、山門そばに六阿弥陀の石塔と対になって置かれていた

石塔型式 角型力（南東向き・高さは中）

年 号 不詳

〔左側面〕

増林村林泉寺

〔正面〕

正観音武州順禮

〔右側面〕

第三十一番

〔裏面〕

御殿境内

〔裏面〕  
御殿境内

正観音武州順禮

〔正面〕

なお、その石塔を裏付ける文書が秦野秀明氏によって指摘された。「越谷市史 続史料編（一）」の「旧記巻」（二〇四頁下段）である。

増林村御殿跡と申候は、当時右村林泉寺境内ニ正観音建置候場所、御殿跡と申石杭ニ記有之由、右村役人榎本氏ヨリ承り伝置候

と記載されている。『御殿跡と申す石杭』とはこの石塔のことかもしれない。有力な史料である。

## 2. 地元の城之上説と『お狩場茶屋』

昭和四十五年三月、越谷市発行の「こしがや」に掲載された年表の中には「慶長9年 越ヶ谷御殿が建てられる。増林字（あざ）城の上より移す」との記述がみられる。増林の茶屋御殿は、この時点までは、言い伝えもあることから『城之上』（しろのうえ、しろのえ）にあったとされていた。その場所は、かつての元荒川筋である古川の自然堤防上である。

今井基善（もとよし）氏《増林三二五九》によると、『城之上』には、昔、將軍様が狩り（鷹狩り）に来た時に利用する『お狩場（かりば）茶屋』があり、將軍様が来ることから、このあたりを（城という字を使って）『城之上』と名付けられた。」との昔からの言い伝えがあったという。この「お狩場茶屋」は、狩りをする時の休憩所という意味で、幕府の茶屋御殿であったに違いな一と思われていた。小島初治（はつはる）氏《増林一〇一一、旧・増林村城之上》は、今でもそのように理解している。地名に「城」の字が付いていることから、「ここに何か城のような重要な施設、お狩場茶屋があった。」と信じられてきたのである。

さらに、それに結びつけた別の言い伝えがある。それは、野口豪氏《現、東越谷、旧・小林村上側（かみかわ）》によると次の通りである。

野口宅の北東方向一〇〇メートル先の、増林村城之上と小林村上側との境界付近の小林村側に、通称「上屋敷（かみやしき）」（現在の東越谷一〇一〇八）と呼ばれた土地がある。「上側」は「上屋敷の側（そば）」という意味ではないかとし、「小林村側ではあるが、由緒ある茶屋御殿跡に、後世になってから上屋敷と呼ばれる建物ができたのである」と推定している。茶屋御殿と上屋敷とを結びつけた説である。

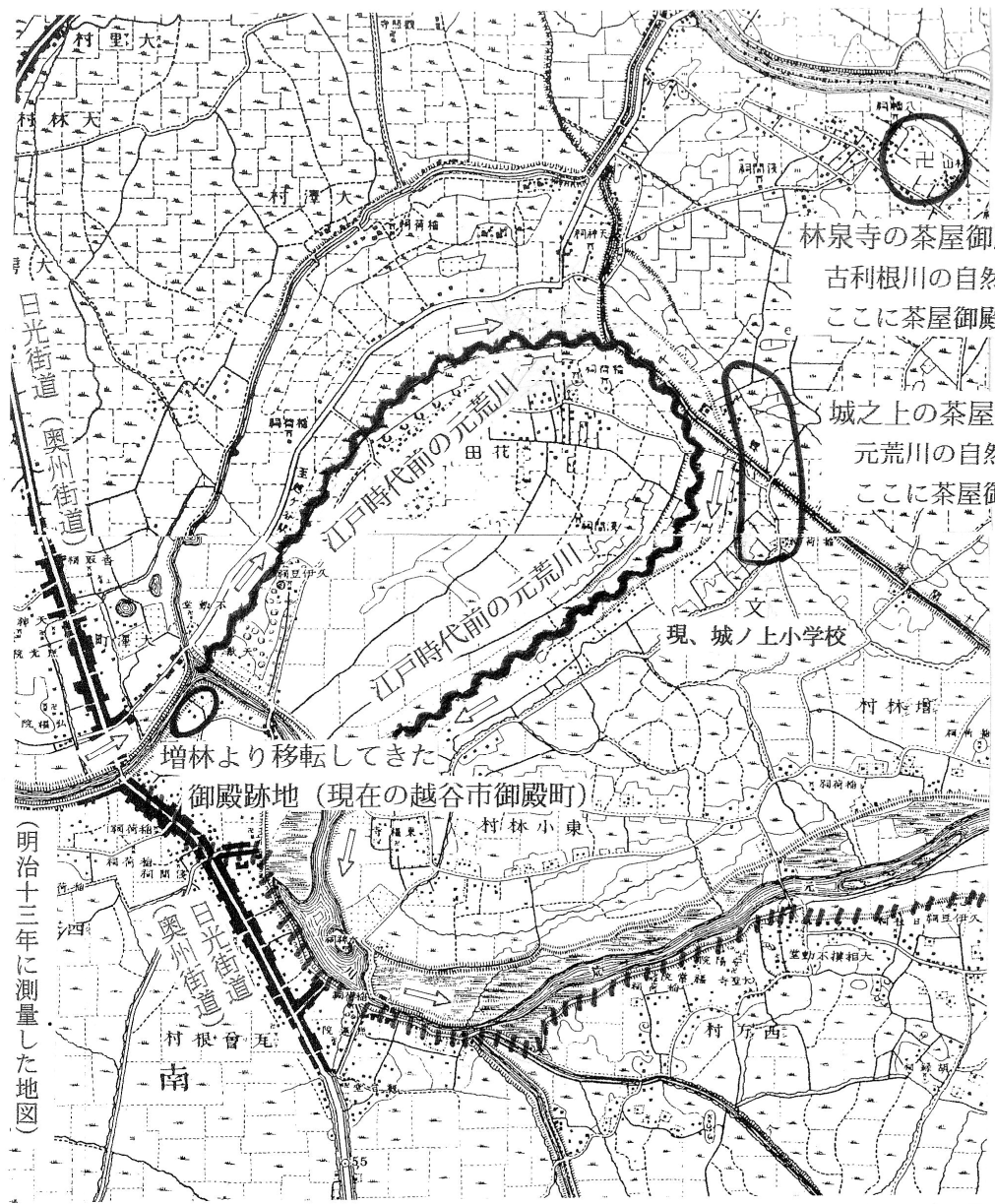
この上屋敷の地は、古川（かつての元荒川）の左岸（南側）そばにあり、水上交通としては便利な所であったに違いない。野口豪宅の裏（北側）は、高い土手が古川に沿って続き、その先に古川が東から西へ流れ、東越谷小学校の校舎あたりを通り、現在の元荒川へとつながっていたのである。

なお、元荒川が天嶽寺前から小林村まで現在のように直道に改修されたのは、茶屋御殿が移された後の寛永年間の頃と推定されている。それゆえに茶屋御殿があったのは、元荒川が花田村を迂回して流れていた頃のことである。「城之上」説には、「御殿」と刻まれた石塔などの物証がないのが残念であるが、城之上説をとると、茶屋御殿は同じ元荒川の自然堤防上を移転したと言えるし、元荒川の自然堤防上の一部には、奥州街道もあった点からすると説得力がある。古くからの言い伝えである城之上説も何らかの根拠があつて言われてきたのであろうから、この言い伝えも重視しなければならないのである。

うがった考え方ではあるが、江戸時代初期の頃の「城之上」の範囲は、もしかしたら現在よりもはるかに広がったかもしれない。そのように仮定すると、古利根川の自然堤防上に位置する林泉寺にあつたとされる茶屋御殿が実は城之上のはずれであるとなり、城之上に御殿があつたとする言い伝えと矛盾が生じないし、城之上説をさらに進めた野口豪氏の古川の自然堤防上の「上屋敷説」も理解できるのである。（2は、平成二十三年四月に聞き取り調査により記す）

御殿の所在地図

増林の茶屋御殿は、城之上にあったとの言い伝えが残る。



古利根川

林泉寺の茶屋御殿跡地？  
古利根川の自然堤防上に位置する。  
ここに茶屋御殿があったと推定。

城之上の茶屋御殿跡地？  
元荒川の自然堤防上に位置する。  
ここに茶屋御殿があったと推定。

新方川 (せんげん堀)

元荒川

江戸時代前の奥州道 (推定)

(明治十三年に測量した地図)